

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第8号 畑作物

発行日 平成20年10月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

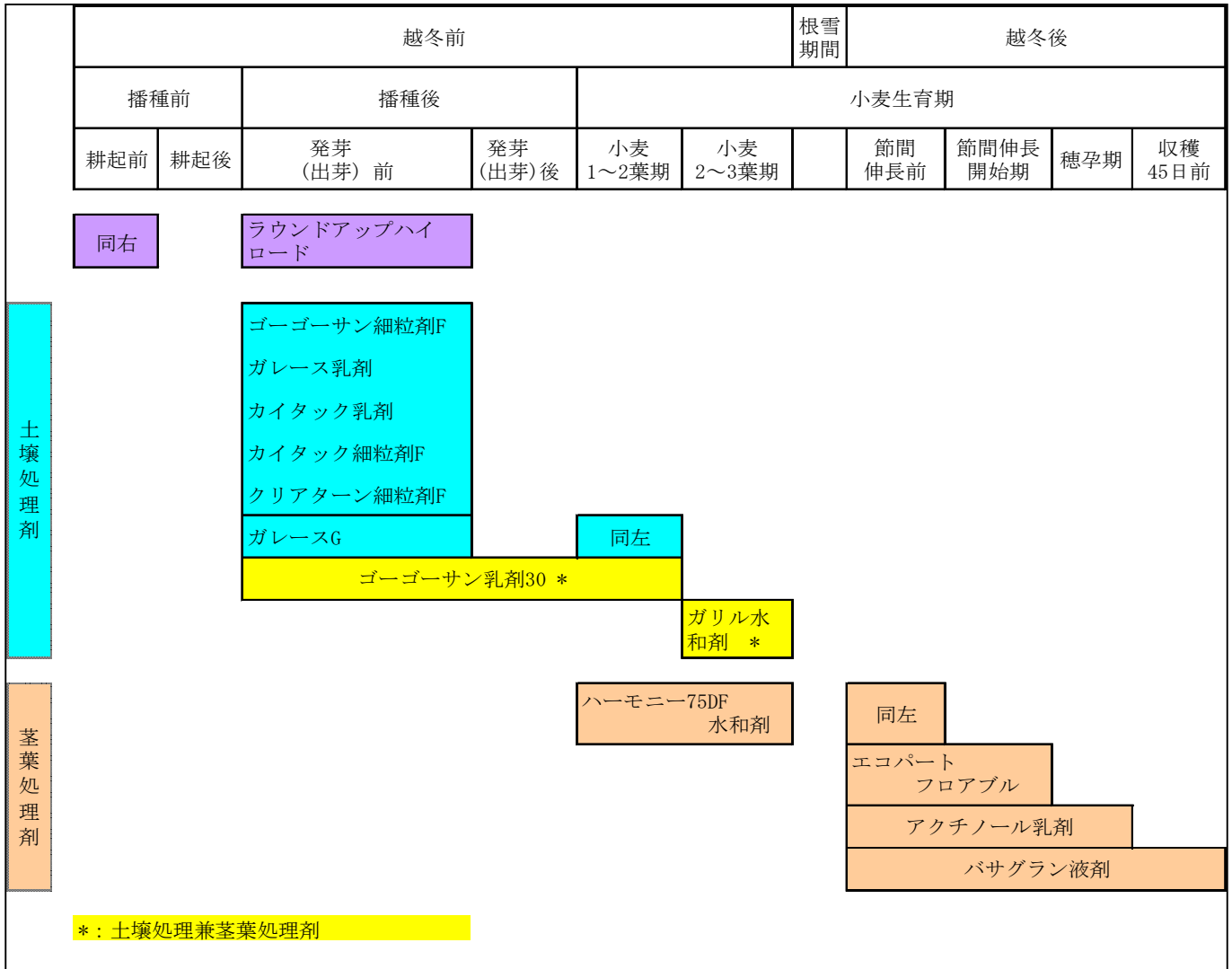
「いわてアグリベンチャーネット」はリニューアルしました！  
新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」(8月以前の記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)

小麦：天候に恵まれ生育は順調です。除草剤の土壌処理剤を散布していない圃場は茎葉処理剤を遅れずに散布しましょう。また適期に麦踏みを行い、凍上害や倒伏を回避しましょう。  
越冬後の雪解け水の速やかな排水のため排水路の点検を行い、整備しておきましょう。

## 1 除草剤の散布

(1) 雑草の草種、発生状態に合わせて茎葉処理剤を散布しましょう。

表1 小麦除草剤の使用時期の目安



注1：除草剤の使用時期は各剤の全ての使用時期を示していない。また、作物体の生育、雑草の発生状況をみながら使用する除草剤を選択すること。

注2：表現の都合上、剤ごとの使用時期とグラフが一致していない場合があるので、使用の際はラベルに記載されている使用時期を遵守すること。

注3：ここでは除草剤の使用手法、使用回数等について示していないのでラベルをよく読み、適正に使用すること。

表2 茎葉処理剤の使用法

薬剤名 10aあたり散布量	適用雑草	使用時期	使用回数	使用方法・使用上の注意事項
ガリル水和剤 150～200g 希釈水量 100L	畑地一年生雑草	小麦2～3葉期 イネ科雑草2葉期以前に使用する	1回	・雑草茎葉散布または全面土壌散布 ・砂土では使用しない ・散布後葉身に白斑が見られる事があるが回復する ・イネ科、タデ類、ハコベ効果有り。アブラナ科作物へのドリフトに気をつける。
ハーモニー75DF 水和剤 5～10g 希釈水量 100L	畑地一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	播種後～節間伸長前(スズメノテッポウ5葉期まで)	1回	・茎葉散布。 ・雑草の茎葉によく付着するように散布 ・雑草の葉齢が進んでいる場合や、散布直後の降雨で効果が劣る。 ・散布後はタンクや散布器具は消石灰(500倍液)を使用して十分に洗浄する。
エコパートフロアブル 50～100ml 希釈水量 100L	畑地一年生広葉雑草	小麦節間伸長始期まで(広葉雑草2～4葉期、ヤエムグラ2～6節期) 【収穫45日前まで】	2回以内	・雑草茎葉散布。 ・重複散布を避ける。 ・他薬剤との同時散布及び7日以内の近接散布を避け、展着剤を加用しない。 ・麦踏み後数日は使用を避ける。 ・散布直後降雨が予想されるときは使用しない。 ・散布後葉身に白斑が見られる事があるが回復する。
アクチノール乳剤 100～200ml 希釈水量 70～100L	畑地一年生広葉雑草	雑草生育初期 【穂ばらみ期まで】	2回以内	・雑草茎葉散布。 ・雑草が生えそろう、小さいうちに散布する。 ・春処理はヤエムグラに効果が高い。 ・河川・湖沼及び養魚池等に飛散・流入するおそれがある場所では使用しない。 ・高温時の散布で薬害のおそれあり。
バサグラン液剤 100～200ml 希釈水量 70～100L	畑地一年生雑草(イネ科を除く)	小麦の生育期(雑草の3～6葉期) 【収穫 45 日前まで】	1回	・雑草茎葉散布。 ・曇天、降雨が続くと効果が劣る。 ・アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科に効果が劣る。
ラウンドアップハイロード 250～500ml (耕起前) 希釈水量 通常散布 50～100L 少量散布 25～50L (播種後出芽前) 希釈水量 50L	畑地一年生雑草	雑草生育期 (耕起10日以前)	1回	・雑草茎葉散布。 ・処理後に発生する雑草には効果なし。 ・土壌処理剤、または茎葉処理剤との体系処理を行う。 ・少量散布の場合は専用ノズルを使用する。
	畑地多年生イネ科雑草	雑草生育期 (耕起3日以前)		
	畑地一年生雑草	雑草生育期 (播種後出芽前)		

(参考) 難防除雑草に対する防除法

優占草種	適する除草剤
カミツレモドキ	ハーモニー75DF水和剤(秋処理) + アクチノール乳剤(春処理)
イタリアンライグラス	輪作 + ガレース乳剤・粒剤(播種後) クリアターン乳剤(土壌処理) + ガリル水和剤(茎葉処理)
キク科一年生・越年生雑草 アブラナ科越年生雑草	カイトック乳剤、ハーモニー75DF水和剤など(秋処理) + アクチノール乳剤(春処理)
ギシギシ、ヨモギ	ラウンドアップハイロード(耕起前) + ハーモニー75DF水和剤(秋処理) + 畦畔管理

注：難防除雑草は除草剤のみの防除では効果が不十分であるため、輪作や休閑期の耕うん、こまめな畦畔管理など耕種的防除を組み合わせ、総合的に行う必要がある。

## 2 麦踏み

**麦踏みの効果：耐寒性と耐干性の強化、倒伏防止、生育の均一化、茎数の増加、主稈や早期分けつ茎の幼穂の形成を遅らせて凍霜害を回避するなど**

- ア 鎮圧ローラーやタイヤなどを用いて行います。
- イ 積雪が少なく土壌の凍結が強い地帯や、土壌が軽い火山灰土などでは特に有効です。
- ウ 実施時期は、越冬前の4～6葉期、または雪解け後の茎立ち前の圃場が乾いているときです。
- エ 回数は、暖冬年で3～5回、寒冬年で2～3回行います。

注意；土壌が過湿の場合、鎮圧により土壌が固結するため、根の発育障害が大きく、かえって逆効果となります。

## 3 雪腐病の防除

9月25日発表の寒候期予報（12月～2月）では、降雪量は平年並みから少ないと予想されています。県北部や高標高地帯など、根雪期間が長い地域では防除を行いましょ。また、例年発生している雪腐病の種類に応じて薬剤の選定を行いましょ。

表3 雪腐病の防除薬剤

薬剤名 希釈倍数・使用量	対象病害	使用時期	使用回数	使用方法・使用上の注意事項
ペフラン液剤 25 1,000 倍液	紅色雪腐病	根雪間近 平坦部：12 月上～中旬 山間部：11 月下 ～12 月上旬	3 回 以内	・茎葉散布。 ペフランで種子消毒を行っている場合、紅色雪腐病を対象とする根雪前の茎葉散布は省略できる。 散布時期を逃さず散布する。 薬剤散布後に2週間以上根雪にならなかった場合または 30mm 以上の降雨があった場合は再散布する。
トップジンM水和剤 2,000～2,500 倍液	紅色雪腐病 雪腐褐色小粒菌核病 雪腐黒色小粒菌核病	〃	3 回 以内	・茎葉散布。 散布時期を逃さず散布する。 薬剤散布後に2週間以上根雪にならなかった場合または 30mm 以上の降雨があった場合は再散布する。
トップジンM粉剤 3 kg	〃	〃	3 回 以内	〃
バンタック水和剤 75 750～1,500 倍液	雪腐褐色小粒菌核病 雪腐黒色小粒菌核病	〃	2 回 以内	〃
モンカット水和剤 50 800 倍液	〃	〃	2 回 以内	〃
モンカット粉剤 DL 4 kg	〃	〃	2 回 以内	〃
キノンドー水和剤 80 オキシンドー水和剤 80 400 倍液	紅色雪腐病 雪腐褐色小粒菌核病 雪腐黒色小粒菌核病	〃	5 回 以内	〃

**※ 農薬を使用する際は、必ずラベル等で使用基準（登録の有無、収穫前使用日数、散布濃度、使用回数等）を確認して使用してください。**

農作物技術情報の20年度定期発行は今号で終了となります。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間**  
**「気をつけて」朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事**